

第 210 回 日本知能情報ファジィ学会 理事会議事録 (第 14 期第 3 回)

日時：2015 年 9 月 4 日 (土) 10:00~12:00

場所：電気通信大学 新 C 棟 C103

出席者：萩原 (会長)、林 (副会長)、中川 (副会長)、堀口 (事業)、川本 (会誌)、
三河 (広報)、片上 (将来構想・他学会連携)、橋山 (大会事業)、
伴 (賞選考・女性会員)、星野 (電子化検討)、金久保 (会計)、井上 (会計監事)、
徳丸 (事業監事)、彌富 (庶務) (敬称略・予定)

議題

1. 議事録の承認 (資料 210-0)

議事録を承認した。(ML で予備承認済み)

2. 除名会員の復会希望への対応について (資料 210-1:金久保)

学会の規定には休会制度がないが、現状運用されていることが金久保理事より報告された。萩原会長より、問題のない人物なら復会してもらうのが学会のためにもいい、誓約書を求める等、厳しい事を求めることの利点がないとの意見に全員が賛同した。先方の希望通りの支払い (32000 円) をうけ復会の対応を行い、これまでの未送付分すべての会誌を送付することとした。

3. 学会賞規定について (資料 210-2:伴)

伴理事より資料に基づき報告がなされ、非会員の貢献賞受賞について議論がなされた。現状では、非会員は表彰の対象外であり、貢献度の高い非会員の人物に報いることができないという問題点について、全員が現制度の改訂の必要性を認めた。今後、必要に応じて理事会で協議し、決定することとした。これにともない、規定の改定が必要になるため、伴理事が文言案を作成することとなった。

4. ANGLE(学生組織)の再組織化にむけて (資料 210-3:堀口)

堀口理事より FSS2015 でのネットワーキングブランチの状況が紹介され、今後の若手研究者ネットワーク形成促進案について全員の賛成を得た。また FSS2016 でも同様の活動を行うことの要望を出していること、また現時点では事業委員会主導だが、将来的にはこの組織での運用を期待する旨が報告された。

萩原会長の研究室の学生などを中心に、組織化を検討することが話し合われた。

以下、議論の中での主なコメント (敬称略)

萩原：ぜひ進めてほしい。

三河：学生組織に以下に多くの情報を渡すかが重要

徳丸：学会 web に若手組織向けのカレンダーを作成すること、メールサービスとの紐づけなどがあるとよい。

星野：義務でしぼるより、ある程度自由度を与えておいた方がいい

5. FSS 開催サポート体制の整備について【継続】（資料 210-4:堀口）

堀口理事より資料の説明がなされ、内容を承認した。プログラム委員を研究部会・研究会から各1名ずつ選出することについては、すでに実行委員に入っている場合もあるため、個別に調整することとした。

6. FSS および SCIS の投稿サイトについて【継続】（星野）

星野理事より、資料 210-R3 をもとに、現状を鑑み、低価格で既存データとの親和性が高く、また人的コストも低いと思われるアトラス社の Pasreg について有力な候補であるとの説明がなされた。

金久保理事より、SCIS の実行委員会で別のシステムの検討を始めていることも報告され、すり合わせを行うこととして本件を星野理事に一任することとした。

7. SOFT-CR について 【継続】（三河）

三河理事より、現状のシステムの構成が難解で扱いにくい事、レイアウトの変更に手間がかかることなど多くの問題があり、新に作成し直す方が望ましいと報告された。星野理事より、システムを入れ替える場合には、既存のドメインを残す必要性もあるため、ブルーチップス社との契約を解消する必要も想定する必要があるため、システムをどのように再構築するかについて、詳細に議論する必要が指摘された。

新に作成するシステムを単純な HTML+CSS で構築した場合、管理者が変わった際にメンテナンスができなくなる可能性があるため、何等かのツールを使った方がいいという意見が中川副会長ならびに星野理事から出された。

今後、三河、星野両理事と、中川副会長で今後の方針を詰めた上で、再度議論することとなった。

8. 会誌発行計画 【継続】（資料 210-5:川本）

9. 掲載料見直しについて（資料 210-6:川本）

川本理事より、資料 210-5 を元に現状の計画が報告され承認された。また掲載料の見直しについても資料 210-6 をもとに、ページ数の過度の増加を抑える目的を考慮した新案が説明された。（継続審議）

10. 会員名簿の受け渡し方法について（資料 210-7:堀口）

堀口理事より資料 210-7 の説明がなされ、本件を承認した。

11. 定款の改定（支部・研究部会）について（資料 210-8:堀口）

時間の都合で、本件を次回に議論することとした。

12. 平成 26 年度学会ロードマップの作成について[継続]（萩原、林）

時間の都合で、本件を次回に議論することとした。

13. 次回理事会の開催について

各種イベントのため、11月13日以降、金曜日午後、土曜日、日曜日を候補として後日日程調整を行うこととした。（各月実施を念頭）

14. その他：

・FANの主催、共催について

以前の理事会で FAN の主催は学会として行わないことを決議したが、萩原会長より、FAN2016 は馬野前会長、関前理事が深くかかわることが明らかになったため、学会として正式に関わることが望ましいのではと提案された。議論の結果、当学会が主催、もしくはすでに主催が決まっている場合は共催にするよう申し入れることで意見が一致した。

報告

1. 理事会サーバ(Dropbox)のパスワード変更について（彌富）

14期の資料サーバについて報告がなされた。

2. サイト会員の受賞について（彌富：選定の対象になるが、受賞には会員化が必要）

MLにて過去の事例、他学会の事例に基づき結論がでた当件について報告された。

3. 学会賞について（奨励賞、功績賞、貢献賞、著述賞）（資料 210-R1:伴）

資料に基づき報告がなされた。

伴理事、徳丸監事より、FSS の企画セッションは採点者が身内、あるいは近しい研究者になる可能性が高くなることもあり、採点が甘くなる傾向が強く出ている旨報告された。論文の場合は推薦されてから内容を文面で確認できるが、FSS の場合、判断の根拠はプレゼンテーションのみで、本当に優秀かどうかはセッションに出ていない場合判断がつかない、また審査員の人数が少ない（2名）ため、客観性の担保が必要と指摘された。

さらに審査員ごとの平均が大きく異なること、基準を実行委員が示しても審査員は読んでくれていない（片上理事）などが報告された。

これについて、審査員を多人数にする（片上理事）、内容を理解できる審査員を別途設けるが手間との trade-off になる（星野理事）などの案が出された。

また、実行委の任期は 1 年であり、審査の客観性、継続性の担保については理事会で責任を負う必要があることが徳丸監事より指摘された。

これらを踏まえ、本件について継続して審議することとなった。

4. 第 11 回ファジィ学問塾について（資料 210-R2:堀口）

資料に基づき報告がなされた。

5. 投稿システム、ドメインの発注報告について（資料 210-R3[当日持ち込み]：星野）

議題 6 参照。FSS と SCIS のドメイン発注についてはカラーチップス社からまだ回答がない旨報告された。（議事録注：9/7 に星野理事より回答あり ML にて連絡あり）

6. FSS2016 の開催時期について（資料 210-R4[当日持ち込み]:橋山）

資料に基づき報告がなされた。会場の都合により日程はこの日のみと補足された。

7. 会員数について（金久保：資料 210-R5）

資料に基づき報告がなされた。

8. その他

将来構想フォーラムが今日明日で行われることが再確認された。